



一般社団法人

**日本病院薬剤師会**

Japanese Society of Hospital Pharmacists

資料5

薬学教育モデル・コア・カリキュラム  
改訂に関する専門研究委員会  
(第1回) R4.2.7

第1回

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する専門研究委員会

2022.2.7

# 薬学教育モデル・コア・カリキュラム に対する考え

日本病院薬剤師会 薬学教育委員会

石井伊都子

## H25年改訂版 モデル・コアカリキュラムにおける大きな変化

- 「薬剤師として求められる基本的な資質」を策定
- 学習成果基盤型教育（OBE, outcome-based education）の導入
- 事前・病院・薬局実習が「薬学臨床」に一本化

### 新たな力点

- ・ 安全で有効な薬物療法の提案とそれを実施・評価できる能力の修得
- ・ チーム医療・地域医療への参画能力の修得

「薬学実務実習に関するガイドライン」が作成

大学が主導的な役割

電磁的実習日誌の導入による情報の共有化

# 病院における長期実務実習に対する基本的な考え方

平成27年2月14日  
一般社団法人 日本病院薬剤師会

1. **基本的考え方**：実習の水準の確保・向上、実習内容の均質化と参加型の質の高い実習の実践、「代表的な疾患」の継続的な実習、「グループ実習」および「ふるさと実習」の推奨
2. **受入施設について**：格差の是正、一施設およびグループ施設要件
3. **一クール毎の受入学生数について**：受入学生数は、受入施設の病棟数を目標とする、但し実習が適正に行われること
4. **実習期間について（ガイドライン記載事項）**：薬局、病院の実習期間は連続性のある 22 週間
5. **受入学生について**：疫学的検査および予防接種
6. **学生の評価について**：ガイドラインに従う（ルーブリック評価）

# 実務実習に関して報告された論文の数

## 医中誌 webでの検索

薬学&実務実習	全て	2953	、	本文あり	738
&原著論文	全て	479	、	本文あり	358

薬学&実務実習&病院	全て	1330	、	本文あり	394
&原著論文	全て	287	、	本文あり	213

検索期間（2000年1月～2021年12月）

薬局実習、病院実習の両方とも積極的に実習に取り組んできた  
方略の工夫、評価の工夫、学生の理解度を意識



**評価者  
(病院薬剤師)  
からみた課題**

## 課題 1

# 中途半端なOBE

医療人養成のために  
採用された新しいカリキュラム  
**学習成果基盤型教育**

*Outcome-based education (OBE)*

**アウトカム(最終的な成果)の提示、  
どこまで達成したか確認しながら学習する。**

学習者がどこまで到達したかを総合的に評価しながら学習を進める。

<薬学部卒業時に必要とされる資質>

## 「薬剤師として求められる基本的な資質」

形式は現在のGIO/SBOsで示すが、  
それは「資質」修得への評価・確認点

薬剤師として求められる基本的な資質は  
明示されたが、H25年改訂版コア・カリ  
の表記がOBEになっていない

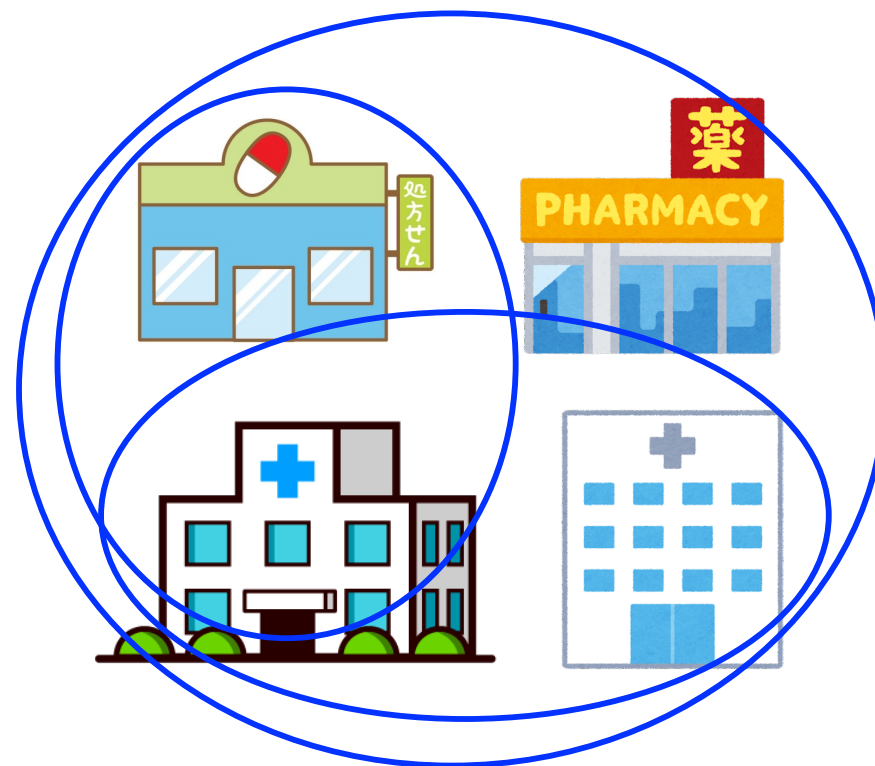
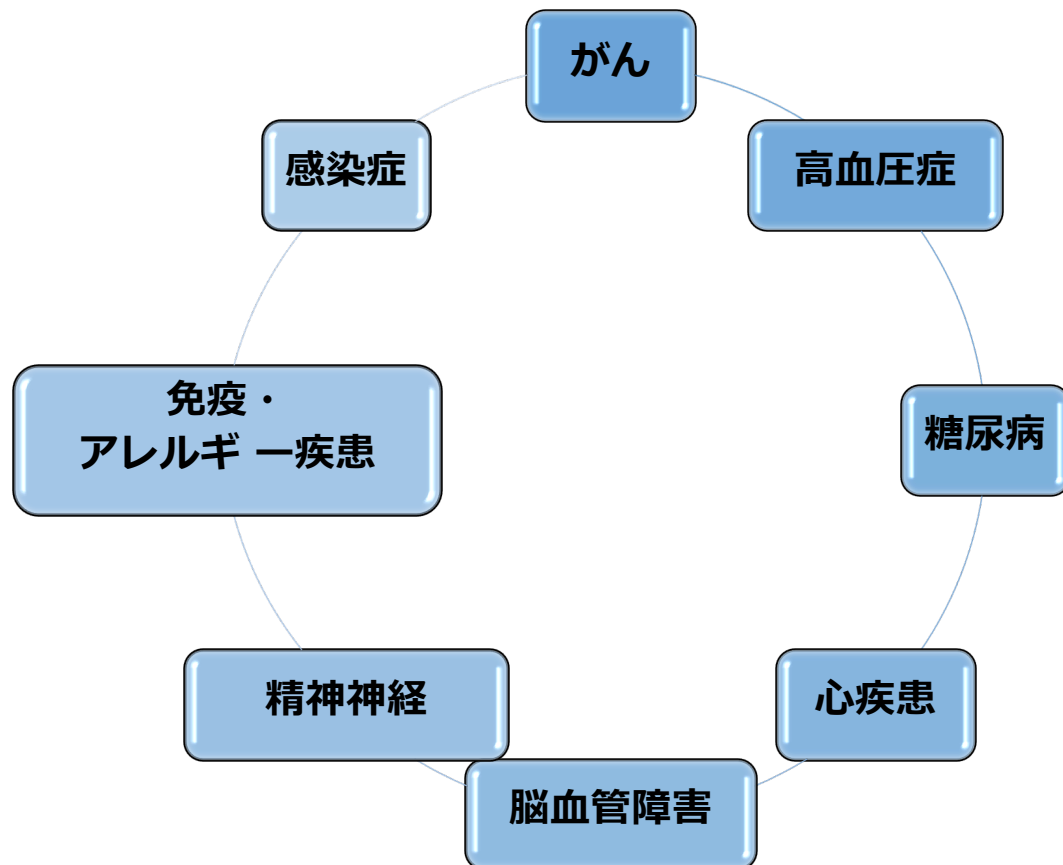
### ガイドラインの作成

GIO&SBOs と評価の観点の突合  
ルーブリック評価の提示

ルーブリック評価とH25年改訂版コア・  
カリのGIOがリンクしていない

## 課題 2

# 8 疾患問題



- 他にも経験してほしい疾患がある
- 季節性・地域性による疾患
- 病院の特徴・タイミング etc.

# 課題3 ルーブリック評価の問題点

## 評価の段階の目安

該当 SBOs	観点	アウトカム	4	3	2	1
改訂コア・カリキュラムに記載されている SBOs をしめす。番号は改訂コア・カリキュラムに記載されているまま示している。	評価・判断をする項目及び視点を示す。	学生の実務実習を通して、成し遂げられたあるいは達成された成果	薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階とする。	薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階 実習中に到達すべき基本目標の段階	実習開始から4週間程度かけて到達するライン	大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者に対応ができる段階 実習開始から2週間程度かけて到達するライン

該当SBOs	観点	アウトカム
改訂コア・カリキュラムに記載されているSBOsをしめす。番号は改訂コア・カリキュラムに記載されているまま示している。	評価・判断をする項目及び視点を示す。	学生の実務実習を通して、成し遂げられたあるいは達成された成果

4	3	2	1
薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階とする。	薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階 実習中に到達すべき基本目標の段階	実習開始から4週間程度かけて到達するライン	大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者に対応ができる段階 実習開始から2週間程度かけて到達するライン

**長所：学生と指導者が評価を共有**

- 薬局と病院の連続した実習にも関わらず、業務内容の相違により、別々のルーブリック評価になった
- レベル4は実際の薬剤師でも到達が難しいケースがある（実習に求める内容を超えてる）

VS

- ようやく慣れてきたのに、評価内容を変えると混乱する
- 卒前・卒後の一貫した教育を評価する指標がほしい



# 課題4 チーム医療に関するSBOの過剰表現と評価の困難さ

## F 薬学臨床 (4) チーム医療への参画 【①医療機関におけるチーム医療】

4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。
5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。
6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。
9. 病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。

学生が到達すべき最低限に留まらず  
薬剤師としてあるべき姿が含まれる

■ 「参加・体験」の解釈は施設任せになる

## 13 (4) チーム医療への参画

【①医療機関におけるチーム医療】	実務実習記録による評価
【②地域におけるチーム医療】	実務実習記録による評価
22 (5) 地域の保健・医療・福祉への参画	
【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	実務実習記録による評価
【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	実務実習記録による評価
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	実務実習記録による評価
【④災害時医療と薬剤師】	実務実習記録による評価

- ・ 日誌の記録の中から、レポートにまとめて指導者に提示
- ・ 振り返りを行なうことをもって評価とする

### <実務実習記録(日誌・レポート)の例示>

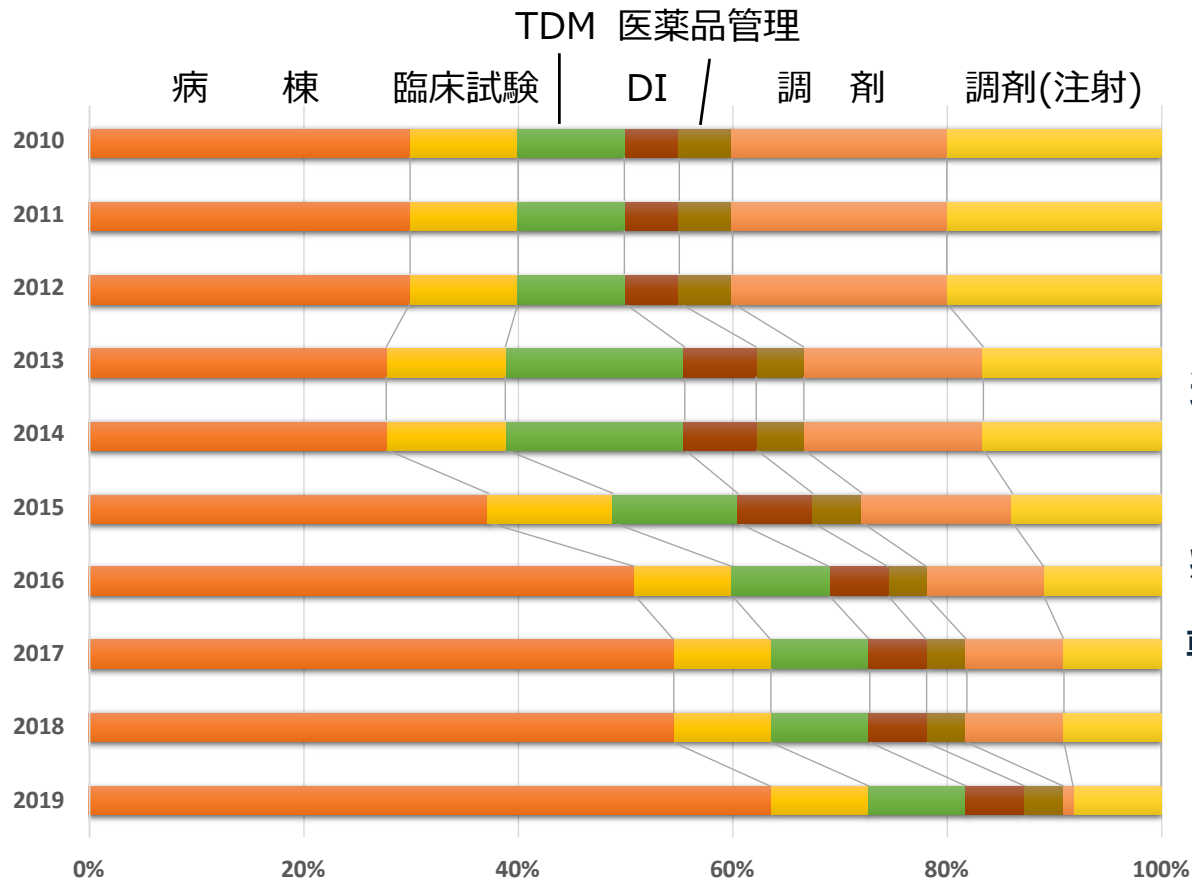
- 実習年月日
- 実習場所とスケジュール
- 具体的な実習内容
- 体験した疾患、活動
- 実習で深めることができた能力
- 実習で不足していると感じた能力
- 今後の実習に向けての抱負
- 感想・要望

■ 共通の評価(標準化)は困難

# 課題 5

## 業務の発展的展開

＜千葉大病院における実習内容の時間比率＞



Vol. 141, No. 5 YAKUGAKU ZASSHI 141, 731-742 (2021) 731  
 —Regular Article—  
 病院実務実習について薬学部生に実施したポストアンケート調査  
 —長期実務実習開始から8年間の変遷—  
 大久保正人,<sup>\*a,b</sup> 増田和司,<sup>a,b</sup> 小林由佳,<sup>a,b</sup> 中村貴子,<sup>a</sup> 鈴木貴明,<sup>a,b</sup> 石井伊都子<sup>a,b</sup>

### ＜千葉大病院の業務拡大＞

- 病棟業務の拡大
- 入退院センター業務
- 手術室業務の拡大
- 通院治療室拡大、病棟業務の拡大
- 手術室業務拡大、周術期管理センタ
- 病棟業務実施加算
- 専従の医療安全管理者(GRM)配置

### 病院業務と実習内容はリンクする

コア・カリには書ききれない  
 実習施設の質の担保・向上

学生からみた  
良い実習



薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中央調整機構委員会  
**実務実習の良い事例の件数（病院）**

	平成30(2018)年度 (件数)	令和元(2019)年度 (件数)	令和2(2020)年度 (件数)
薬物療法の実践	12	10	2
医療機関におけるチーム医療の実践	9	6	(-)
医療連携の体験	3	2	1
協力病院とのグループ(他施設)実習の実施	2	(-)	(-)
災害時医療の体験	2	(-)	(-)
充実した実習環境と指導体制の構築	38	38	12

実務実習の良い事例集より集計

# 良い事例

## —薬物療法の実践—

- 化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践した。
- TDM 対象薬の血中濃度測定値の適切な評価と副作用のモニタリングを実践した。
- 学生が実習中に会った副作用事例について、報告資料を作成し PMDA に報告した。

## —充実した実習環境と指導体制の構築—

- 病棟で医師や看護師と連携した。
- 実習の順序が「薬局」⇒「病院」であるため、最初から病棟での実習が可能となった。
- 初回面談に伺った患者さんの退院を見届け喜びを感じることができた
- 小規模の病院ではあるが、・・・全スタッフで、臨床薬剤師を育てる施設となっている。
- 該当の病院では8疾患にどのように関わったかがよくわかる発表形式であった。
- チームカンファレンスへの参加した。
- 治験センターでの実習ができた。

## —医療連携の体験—

- 多職種カンファレンスに参加し患者との関わりを体験した。
- チーム医療で実習した（NST、ICU、緩和ケアチームなど複数の報告あり）。
- 急性期から慢性期における様々な施設を活用した連携実習の実施。
- 退院時共同指導に病棟薬剤師と同席し、参加しているかかりつけ薬局の薬剤師との連携を体験することができた。
- 不足している実習項目を他病院で実施することで急性期や地域拠点病院等の施設の違いを学べた。
- 神科科領域、慢性期疾患を補う他施設連携実習の実施

**実践・体験・参加により学生の満足度が高くなる**

薬学教育協議会 HP 良い事例集より抜粋、一部編集  
[https://yaku-kyou.org/?page\\_id=7313](https://yaku-kyou.org/?page_id=7313)

	課題内容	リクエスト・提案・さらなる課題
課題 1	中途半端なOBE	コア・カリの構造・表現の問題 → 評価にまで影響する → 臨床実習にはガイドラインが必要となる
課題 2	8 疾患問題	がん、循環器疾患、感染症などを必須とし、他に重要な疾患があれば学習の対象とする。 「広く・浅く」より「 <b>より深く</b> 」を求めたい (→ 薬剤師の薬物治療へのアプローチに対する深い理解)
課題 3	ループリック評価の問題点	薬局→病院で同じループリック評価ができるか。さらに、卒前・卒後の一貫した評価ができることが望ましい
課題 4	チーム医療に関するSBOの過剰表現と評価の困難さ	大学教員との相互理解が重要となる
課題5	業務の発展的展開	業務が発展すれば、すぐに実習の対象にしたい



学生：実践、体験、参加型であること

**コア・カリに  
対する考え**

コア・カリの表記：学生が主語となり、学生・指導者がともに理解しやすいもの  
コア・カリの内容：minimum requirements ??  
それが難しければ項目によっては実践の義務・優先順位付け？